

令和7年 年頭のご挨拶

2025年が明けました。今年こそ良い年になりますよう、願っております。

昨年は大きな災害が続いた1年でした。新たな災害に対しての強靱化も求められており、私たちが日々備えていきます。同時に「激動、不確実」の1年でした。

医療・介護においては人口減少、受療行動の変化、コロナ関連補助金終了、物価高騰などで病院経営の悪化が顕在化、新潟県では公立・公的病院の経営悪化に対し県主導で対応と報道されております。公的病院本来の役割に基づいた改革を期待しております。

当法人経営も例外なく、メイン銀行からの支援で「プロジェクト 25」と称した改善計画を実施中ですが、このプロジェクトを通じて法人職員の底力を実感しております。

思い起こせば中越地震、中越沖地震、東日本大震災、コロナパンデミック、さらに言えば立川総合病院の新築移転も大事業でしたが、職員一丸となって乗り越えてきました。

しかし昨年は物価2.5%上昇、他産業平均5.1%の賃上げで本年も同程度が予測されるどころ、長年続いてきた医療費抑制政策により医療・介護に懸命に勤んでいる方々への賃金は減額を余儀なくされました。影響は全国に及び新人医師たちの診療科選択の偏り、医療人材不足をもたらし、昨年末には「崖っぷち」と著名な経済週刊誌に特集されました。現場感覚からは早晩「どん底」に転落し、立て直し出来ないと危惧しております。

但し昨年の総選挙の結果政権は少数与党となりました。今後与野党問わず国会議員諸氏においては医療の現状を直視し、特に高度救急救命に携わる急性期病院の危機的状況改善に直結する大政策転換を期待します。高度救急救命の存続は地域社会に必須条件です。

立川総合病院の消化器内科常勤医不在が続いておりますが、昨年7月から昭和大学横浜市北部病院消化器センターから週2回の応援が叶いました。常勤医不在は命に直結します。現在も長岡赤十字病院様、長岡中央総合病院様ほか多くの関係者にご協力を頂いておりますが、両病院の働き方改革に多大な影響をもたらしております。当院マッチング内定者の辞退も相次ぎました。本問題は中越医療圏のみならず全県的に取り組むべき最重要課題と言わざるを得ません。

昨年からは長岡市東西道路四車線化に向け高速大積スマートインターから国道8号をへて東西道路に繋がる連絡道路の工事が急ピッチで始まりました。現東西道路をさらに強靱化すべく西宮内交差点改良や立川総合病院南側融雪化工事も進んでおります。東西道路は新潟県中央部の東西を貫く大動脈かつ県南部の3重の環状道路網構想の中心に位置し、上越・魚沼とのアクセスが大幅に改善します。医療機能集約化にも多大な寄与が見込まれます。

悠遊健康村病院の入院透析施設は順調に稼働し現在40名近くに利用頂いており、今年も定員増の予定です。その効果は想定以上に多方面に及んでおり、さらに現在通院透析されている多くの患者さんや導入予定の方々の将来不安の払しょくにもなっています。

様々な試練に直面する中、私たちの使命は救急医療をはじめとした地域医療の質と量の堅持、医療需要への的確かつ迅速な対応、医療人育成など未来への投資を着実に進め、患者さんにも職員にも選ばれる魅力ある法人となることと認識しております。

あらためて本年が皆様にとって実り多い良い年になることを心より願い、年頭のご挨拶とさせていただきます。

医療法人立川メディカルセンター 理事長 吉井 新平